



水晶山から見た地区の風景

古市 市というだけあって、江戸時代、ここには市がたつていた。四万十川中流域の当時の物流事情は、険しい四国山地を越えてくる陸上輸送よりも、志和に上陸する海路が主であった。志和に下るさされた物資は、陸路で東又、見付等を経由してここ古市に入り、盛んに取引された。取引された後の物資は、今度は四万十川を下ったのだそう。

この辺りに古くから住む人の話によると、国道56号が現在ののように、車がビュンビュン行き来するような幹線道路として整備される前は、役場本庁舎前から見付へと続く旧道が感覚的には「メインストリート」であったということである。つまり、今日のような車社会になる「つい最近」までは、江戸時代の物流ルートがそのまま、人々の生活の実感として残っていたということになるからおもしろい。

現代になってからの古市町。今でこそ、住宅や商店、町工場などが密集しているが、ほんの20年ほど



水晶山への登り口

前までは田畑もたくさん残っていた、刈り取った後の田んぼで子どもたちが遊び、また、地区の南側にある山林や「水晶山（はげやまとも言うらしい）」と呼ばれる小さな丘で、子どもたちの歓声が聞こえた。ちなみに、この「水晶山」では、ちよつと勇気がいるくらいの高さからすべり降りる、いわゆる「根性試し」が、子どもたちの間で定番の遊びであったという話も聞いた。今の時代であれば、危険という認識が先に立って、大人の側がなかなか子どもにやらせる勇気がない。明らかに危険なことは別として、少々のことなら「大人にこそ根性試しが必要な時代」といったところだろうか。

古市町の古い歴史からも、比較的新しい歴史からも、どちらからも共通して伝わってくるのは、この地区に住む人々や地区そのものに内在している活気である。それはその昔「市」という、人間の活気の象徴とも言える営みが、この地で行われていたことから生まれたものであるのかもしれない。

町のうごき

(12月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	9,031	-9	男 4	13	10	10
女	10,135	-21	女 2	22	10	11
計	19,166	-30	計 6	35	20	21
世帯数	8,790	-13	(12月中の届出)			

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	1月9日
リン酸	≤ 5.0	0.271
硝酸	≤ 0.5	0.571
アンモニウム	≤ 5.0	測定値以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.650
化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定値以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。（pdfファイル）